

マサバおよびゴマサバ太平洋系群の漁況予報

今後の見通し(2007(平成19)年8月~12月)

対象海域：薩南～豊後水道、紀伊水道外域、熊野灘、伊豆諸島周辺海域、犬吠～三陸海域

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、たもすくい

対象魚群：0歳魚(2007(平成19)年級群)、1歳魚(2006(平成18)年級群)、2歳魚(2005(平成17)年級群)、3歳(2004(平成16)年級群)以上。魚体の大きさは尾叉長で表示。年初に加齢。

1. 薩南～豊後水道(まき網、定置網)

(1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ0歳魚は、薩南では前年並み、日向灘～豊後水道では上回る。1歳魚は前年同様低い水準。2歳魚は好調であった前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。サバ類全体としては薩南、豊後水道では前年を下回り、日向灘では上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、34 cm以下(0~2歳魚)が漁獲される。日向灘では35 cm前後(3歳魚)も多く漁獲される。期後半に20~25cmのマサバ(0歳魚)が混獲される。

2. 紀伊水道外域(まき網、定置網)

(1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ0歳魚は前年を上回る。1、2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。サバ類全体として前年を下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、25~36 cm(1~3歳魚)が漁獲される。期後半には28 cm以下(0歳魚)も漁獲される。

3. 熊野灘(まき網、定置網)

(1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ0歳魚は前年を上回る。1、2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。サバ類全体としては前年を下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：マサバは混獲程度。ゴマサバが主な漁獲対象となり、25~36 cm(1~3歳魚)が漁獲される。期後半には28 cm以下(0歳魚)が混じる。

4. 伊豆諸島周辺海域(棒受網、たもすくい)

(1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ0歳魚は前年を上回る。1歳魚は前年同様低い水準。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。サバ類全体としては前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：期を通じて三宅島および銭洲周辺が主漁場となる。

(3) 魚体：マサバは混獲程度。ゴマサバは30~37 cm(3歳魚)が主体となる。25~35 cm(1、2歳魚)が混じる。25 cm以下(0歳魚)も漁獲される。

5. 犬吠～三陸海域(まき網、定置網)

(1) 来遊量：マサバ0歳魚は前年を上回る。1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。マサバとしては前年を下回る。ゴマサバ0歳魚は前年を上回る。1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。ゴマサバとしては前年を下回る。サバ類全体として前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：定置網は期を通じて漁獲される。まき網は、8月は三陸北部海域で漁場が形成される。9月には金華山周辺でも漁場が形成される。10月には三陸～常磐海域に漁場が広がる。11月は三陸～犬吠海域となるが、主漁場は常磐以南。12月には常磐～犬吠海域に漁場が形成され、犬吠海域が主漁場となる。

(3) 魚体：マサバは32~38 cm(3歳魚)主体に27~32 cm(2歳魚)、25~28 cm(1歳魚)が混じる。期後半に19~25 cm(0歳魚)が漁獲される。ゴマサバは35 cm前後(3歳魚)主体に期後半には25 cm以下(0歳魚)も漁獲される。

漁況の経過（2007（平成19）年1月～6月）および今後の見通しについての説明

1. 資源状態

(1) マサバ

資源量は1990年以降依然として低い水準にあるが、加入量水準の高い2004年級群の発生により資源量は増加傾向にある。

2003年級群（4歳魚）以上の残存資源量は少ない。

2004年級群（3歳魚）は昨年時点では1992年級（28億尾）に準ずる加入量水準（24億尾）と評価されたが、その後道東～三陸～常磐海域において、2歳魚としては近年にない豊漁となった。これを受けて2007年2～3月に資源を再評価し、2004年級群の加入量水準が過小であったことを確認した。本年7月の評価では2004年級群の加入量は36億尾と1992年級群を上回る水準に上方修正された。現在の残存資源尾数は2.6億尾と、3歳魚としては近年にない高い水準である。

2005年級群（2歳魚）は、2005年5月の黒潮-親潮移行域中層トロール幼魚調査（中央水研・北水研）を除き、いずれの調査船調査でも漁獲状況が悪く、加入量水準の低い年級と評価された。漁業における漁獲状況も悪く、茨城水試による未成魚越冬群指数は177と、2001、2003年級群を上回るものの低い値となった。これらの結果を総合して推定された2005年級群の加入尾数は2.7億尾程度と、加入量水準の低い2001、2003年級群並みの水準と判断される。

2006年級群（1歳魚）は、調査船調査および漁業における漁獲状況がいずれも悪く、現在までの漁業による漁獲尾数も著しく少ない。本年4月以降まき網による操業自粛が行われ、従来漁獲が本格化する越冬期～北上期に操業がなかったことを考慮しても、その加入量水準は低いと考えられる。コホート解析では加入量は5千万尾程度と推定されており、2005年級群をさらに下回る水準と評価されている。

2007年級群（0歳魚）は、黒潮-親潮移行域中層トロール幼魚調査（中央水研・北水研）による加入量指数が12.1と、2004、2005年並みの高い値であった。東北水研による北西太平洋中層トロール資源調査（サンマ漁期前調査）から推定される推定資源尾数は105億尾（暫定値）と、2004年級群（64億尾）を上回った。茨城県の船曳網、千葉県定の定置網など沿岸域でも昨年、一昨年よりマサバ0歳魚の分布が多くみられているほか、釧路水試による流し網調査においても分布が確認されている。これらのことから2007年級群は2005、2006年級群より加入量水準は高いと考えられる。しかし発生後間もない現時点での調査結果に基づく評価は極めて不確実である。

(2) ゴマサバ

資源量は1996年級群の高い加入量水準によって増加し、2004年にピークに達した後、2005、2006年級群の加入量水準が低いため減少しているが依然高い水準にある。

2003年級群（4歳魚）以上の残存資源量は少ない。

2004年級群（3歳魚）はこれまで各地漁業の漁獲主体であり、近年の卓越年級群である1996年級群（推定加入尾数：17億尾）を上回る推定加入尾数27億尾の卓越年級群であると推定され、2007年当初の推定残存資源尾数も2億尾と3歳魚の資源尾数としては1995年以降最高である。

2005年級群（2歳魚）は、推定加入尾数が4億尾であり、これまでの漁況経過や調査船調査結果からも豊度は低いと判断され、資源尾数は少ない。

2006年級群（1歳魚）は、推定加入尾数が1億尾であり、これまでの漁況経過や調査船調査結果からも豊度は過去最低水準であると判断され、資源尾数は少ない。

2007年級群（0歳魚）は定置網などの各地漁業で漁獲されはじめている。調査船調査では、5月の黒潮-親潮移行域中層トロール幼魚調査（中央水研・北水研）による加入量指数は14であり、2005年：11、2006

年：5を上回り、2004年：17に近い高い値であった。6～7月の北西太平洋中層トロール資源調査（東北水研）による推定現存量は410億尾（暫定値）であり、過去の同調査における2004年級群：111億尾、2005年級群：6.2億尾、2006年級群：0.1億尾を上回り、2001年開始以降の同調査で最高であった。これらの調査船調査結果は年級群豊度をよく指標すると考えられている。発生後間もない現時点での評価は不確実ではあるが、これまで得られている情報からは2007年級群は1996、2004年級群のように加入量水準が高い可能性がある。

2. マサバ

(1) 来遊量

資源状態に記したとおり、0歳魚（2007年級群）の加入量水準は、情報が限られており不確実ではあるが、2005、2006年級群を上回り、比較的高いと考えられる。

1歳魚（2006年級群）の加入量水準は、2005年級を下回る水準と考えられ、予測期間における関東以北への来遊量は、前年をさらに下回ると考えられる。

2歳魚（2005年級群）の加入量水準は2001、2003年級群並みの低い水準であり、現在の残存資源尾数は5千万尾程度と考えられることから、来遊量は多かった前年2歳魚（前年同期資源尾数：8.4億尾）を下回ると考えられる。

3歳魚（2004年級群）の残存資源尾数は2.6億尾程度と3歳魚としては近年になく多いと考えられることから、来遊量は前年3歳魚を上回ると考えられる。

以上のことから本予測期間は2004年級群（3歳魚）が主体となる。これに2005年級群（2歳魚）、2006年級群（1歳魚）が混じるが少ない。期後半に2007年級群（0歳魚）が漁獲され、漁獲の主体になる可能性もあるが、0歳魚の加入量の見積もりは非常に不確実である。マサバ全体としては、多かった前年を下回ると考えられる。

伊豆諸島以西の海域では、サバ類に占める近年のマサバの割合は低く、漁場形成があっても不安定である。

(2) 漁期・漁場

常磐海域から犬吠周辺におけるまき網によるサバ類の1～6月の漁獲は、4月以降の操業自粛もあり、29,960トンと前年同期（81,968トン）を下回った。

千葉県以北沿岸の定置網による1～6月のサバ類の水揚量は2,686トンと前年同期（4,337トン）を下回ったものの近年では比較的高かった。

たもすくい、棒受網漁業（千葉県、神奈川県、静岡県船）の1～6月のマサバ水揚量は3,347トンと、前年同期（556トン）を上回り、1996年級群が2歳として漁獲された1998年以来9年ぶりに1000トンを上回って好漁となった。漁場は利島～大室だしが中心であった。

今漁期は、常磐海域以北ではまき網、定置網での漁獲が中心となる。すでに7月上旬に八戸沖でまき網の漁獲が始まっていること、三陸沿岸定置網にもまとまって入網していることから、魚群は東北海域に達していると考えられる。8～9月は三陸北部海域を中心に漁場が形成され、10月には三陸～常磐海域に漁場が広がる。11月は三陸～犬吠海域となるが、主漁場は常磐以南。12月には常磐～犬吠海域に漁場が形成され、犬吠海域が主漁場となる。道東海域は現在親潮の勢力が強く低水温状態にあるが、今後水温が17以上に昇温すれば漁場形成される可能性がある。

本予測期間中は、伊豆諸島以西の海域ではほとんど期待できない。

(3) 魚体

常磐から犬吠周辺では、1～3月は25～35cmの2、3歳魚が漁獲された。4月は21～30cmの1、2歳魚、5月は26～38cmの2、3歳魚、6月は32～35cmの3歳魚が漁獲された。年齢査定結果や体長組成の推移

などから、関東以北における本予測期間の年齢別尾叉長は、1 歳魚 25~28 cm、2 歳魚 27~32 cm、3 歳魚 32~38cm と考えられ、期後半に出現する 0 歳魚は例年の傾向から 19~25 cm と予測される。年齢査定結果によると各年級群の体長幅は広く重なり合っており、厳密な体長区分は困難である。なお、熊野灘以西の海域での成長はこれよりやや速いと考えられる。

(4) 資源管理

マサバの親魚量は 2004 年級群の高い加入により増加傾向にある。2007 年産卵期は 2004 年級群が 3 歳魚として活発に産卵した。産卵量は 2007 年 1~6 月でサバ類で 312 兆粒、マサバのみでも 251 兆粒と大きく増加、1982 年以来 15 年ぶりに 200 兆粒を超えた。しかし 2005、2006 年級群の加入量水準は低く、親魚量は今後減少すると考えられる。続く 2007 年級群は、現段階では不確実であるが、比較的豊度の高い年級であると期待され、2007 年級群を保護することにより親魚量の減少を一時的なものにとどめ、更なる増加につなげることができると期待される。現在マサバ太平洋系群の親魚量の回復を目指した資源回復計画が実行されている。親魚量の増加傾向を維持しマサバ資源の回復を図るため、若齢魚の保護を継続することが肝要である。

3. ゴマサバ

(1) 来遊量

資源状態の項に前述の通り、0 歳魚(2007 年級群)はこれまで得られている情報からは加入量水準が高いと推定され、期後半に加入し、薩南以外では前年を上回る。1 歳魚(2006 年級群)および 2 歳魚(2005 年級群)は資源量水準が低いと推定され、前期までの漁況では、例年 1、2 歳魚が漁獲の主体となる熊野灘以西海域においても漁獲は少なかった。来遊量は、1 歳魚は前年同様に低い水準、2 歳魚は加入豊度の高い前年の 2 歳魚(2004 年級群)と比べることから前年を下回る。3 歳魚(2004 年級群)は、各地漁業の漁獲主体となっており、残存資源量は 3 歳魚としては高い水準にあると推定され、来遊量は前年を上回る。4 歳(2003 年級群)以上の残存資源量は少なく来遊量は少ない。以上のように 2004 年級群に続く 2005、2006 年級群の加入豊度は低く、全体では前年を下回る。

(2) 漁期・漁場

1~6 月のゴマサバ漁況は、伊豆諸島以西の海域では 3 歳魚(2004 年級群)の漁獲状況によって各海域で異なった。3 歳魚の来遊が多かった日向灘および熊野灘では好調であった前年を上回り、同様に薩南海域では好調であった前年を下回ったが平年を上回った。他の海域では前年を下回った。犬吠以北海域のまき網では、前年に引き続き 3 歳魚主体にマサバに混獲されたが操業自粛もあって漁獲量は前年の約 2 割であった。1~6 月の漁獲量は、薩南海域~紀伊水道外域は 2.2 万トン(前年同期実績 3.3 万トン)、熊野灘~伊豆諸島周辺海域は 3.0 万トン(同 3.1 万トン)、犬吠以北海域は 0.3 万トン(1.3 万トン)であった(漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本の種判別結果等からの推定値)。

熊野灘以西海域では、3 歳魚(2004 年級群)の資源水準が高いものの、主体となる 1 歳魚(2006 年級群)、2 歳魚(2005 年級群)が少ないため、期を通じて漁場が形成されるが低調となる。

伊豆諸島周辺海域では、3 歳魚(2004 年級群)の資源水準が高く、近年の主漁場である三宅島~銭洲周辺海域で期を通じて漁場が形成される。

犬吠以北海域では、近年、高水温傾向にあり、三陸以北へ索餌回遊するゴマサバが多くなっている。越冬後の 1 歳以上が 2001 年以降は三陸北部まで、2005、2006 年は道東海域まで来遊してまき網漁場を形成した。三陸以北海域では 3 歳魚がまき網で多獲されたことは過去に例が無いものの、7 月に入って資源量水準の高い 3 歳魚(2004 年級群)がすでに三陸北部のまき網で漁獲されており、今期も 3 歳魚主体に三陸北部海域まで来遊してマサバに混獲される。

(3) 魚体

体長組成の推移、年齢査定の結果から、今期の年齢別尾叉長は概ね次の通りである。0 歳魚 (2007 年級群): 28 cm 以下、1 歳魚 (2006 年級群): 25 ~ 33 cm、2 歳魚 (2005 年級群): 29 ~ 35 cm、3 歳魚 (2004 年級群): 30 ~ 37 cm、4 歳以上 (2003 年級群以上): 36 cm 以上。伊豆諸島周辺以北海域では、熊野灘以西海域よりも若齢魚の体長はやや小さい。

熊野灘以西海域は、例年 1 歳魚が漁獲の主体になるが、今期は、1、2 歳魚の来遊量は少ないとみられることから、資源水準の高い 3 歳魚の漁獲物に占める割合が高い。伊豆諸島周辺海域および犬吠以北海域では資源水準の高い 3 歳魚が漁獲の主体になり、1、2 歳魚が混じる。いずれの海域も期後半には 0 歳魚も漁獲される。

付記

東北海区サバ長期漁況予報の太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報への統合のお知らせ

これまで三陸沖でのサバ類を対象とした漁業に対応するため、毎年 10 月始めに東北海区サバ長期漁況予報を出して参りましたが、近年ではサバ資源の分布回遊範囲の縮小と対象魚群の若齢化によって漁期が早まり、10 月には三陸沖漁場が終盤となる状況になっています。

そのため、東北海区のサバの漁況予報は、現在、太平洋全体のサバ類の漁況予報として中央水研で出される太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報の 7 月の予報に統合することが適切であることから、今後は当該予報に東北海区におけるサバ類の漁況予報を統合することとして整理し、予報精度を維持・向上して参ります。

従いまして本年 10 月から東北海区サバ長期漁況予報は出されなくなりますのでご承知ください。